

— 学生に寄り添ったきめ細やかなコミュニケーションが採用の鍵 —

はじめに

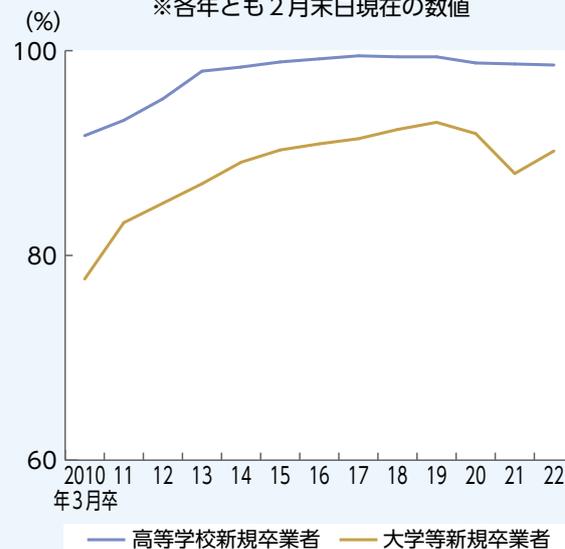
新潟労働局によると、県内の新規学校卒業生（2022年3月卒業、22年2月末現在）の就職率は高校卒が98.6%と、13年3月卒以降、10年連続で98%台を超えた（図表1）。また、大学等卒は90.2%と前年同月に比べて2.2ポイント上昇し、高水準での推移が続いている。新型コロナウイルスの影響による業績悪化から、一部業種では求人を控える動きがみられたものの、県内企業では人手不足や社員の高齢化が進んでいることから、新規学卒者に対する採用意欲は引き続き高いことがうかがえる。

一方、県内新規学校卒業生の県内への就職率をみると、高校卒が88.4%、大学等卒が58.3%となっている（図表2）。新型コロナウイルスの影響で県外での就職活動に制約があったことなどから、県内で就職する割合は20年3月卒を底に、この2年間はやや上昇傾向にあるものの、依然として県外への人材流出が続いている。

新型コロナウイルスの影響が長期化するなかで、就職活動のオンライン化が進む一方、入社式では対面形式を復活させる企業が前年に比べて増加するなど、新社会人をとりまく状況は大きく変化している。こうしたなか、新入社員を対象に就職先選定の際に重視した点やこれから働くうえでの就労意識などについて、アンケート調査を行なった。

■ 図表1 新潟県における新規学卒者の就職率の推移

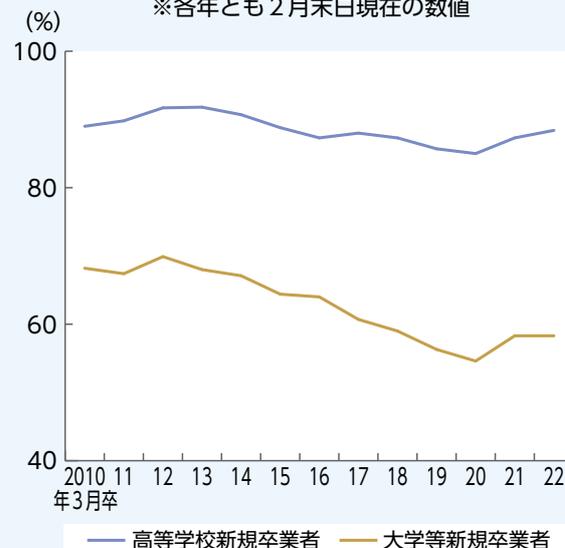
※各年とも2月末日現在の数値



(資料) 厚生労働省新潟労働局「新規学校卒業生の求人・求職状況」

■ 図表2 新規学卒者の県内への就職率の推移

※各年とも2月末日現在の数値



(資料) 厚生労働省新潟労働局「新規学校卒業生の求人・求職状況」

01 新潟県内に就職した理由

—「自宅から通勤できるから」がトップ。

ただし、前年調査に比べて低下—

新潟県内に就職した理由を尋ねたところ、「自宅から通勤できるから」の割合が35.6%と最も高くなった（図表3）。以下「就職したい会社があったから」（18.5%）、「新潟に愛着があるから」（17.4%）、「地元で貢献したいから」（11.5%）などの順となった。

地元就職か、Uターン就職かといった就職形態別にみると、「地元就職」では「自宅から通勤できるから」の割合が最も高くなった。一方、「Uターン就職」では「新潟に愛着があるから」、「Iターン就職」では「就職したい会社があったから」が最も高くなった。

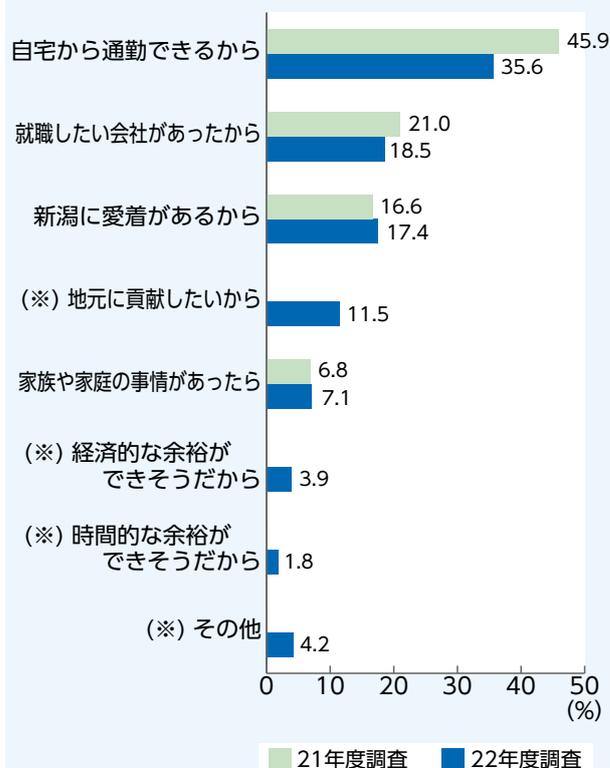
選択肢の違いなどがあり単純に比較はできないものの、前年調査と比べてみると、「自宅から通勤できるから」の割合が前年調査では新型コロナウイルスの影響から4割台半ばとなっていたものの、その反動もあり大きく低下した。一方、「新潟に愛着があるから」などがわずかながら上昇している。

02 現在の会社（職場）を選んだ理由

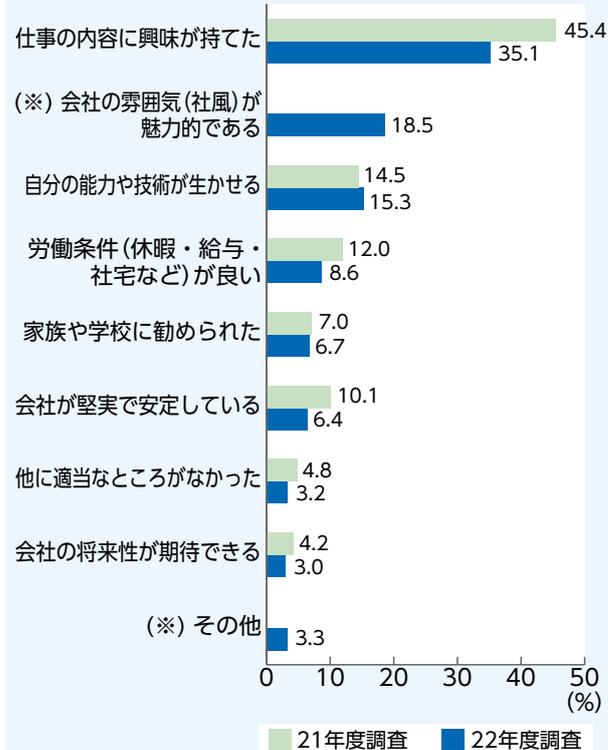
—「仕事の内容に興味を持てた」がトップ—

現在の会社（職場）を選んだ理由を尋ねたところ、「仕事の内容に興味を持てた」の割合が35.1%と最も高くなった（図表4）。回答者からは「業務内容が国内で唯一であることに加え、さまざまな場所に出張して営業の仕事がしたいという希望が叶う会社だった」（大卒、男性、Iターン就職）、「会社見学で実際に職場をみて、仕事内容に興味があった」（大卒、男性、地元就職）などの声が複数あがった。次いで「会社の雰囲気（社風）が魅力的である」

■ 図表3 新潟県内に就職した理由



■ 図表4 現在の会社（職場）を選んだ理由



注意：図表3、4において(※)の選択肢は今回調査から追加した選択肢である

(18.5%)、「自分の能力や技術が生かせる」(15.3%)が続いた。なお、回答者からは、「会社に初めて訪問した際、社員のみなさんが明るく挨拶してくれてうれしくなり、社風が良い会社だと感じた」(高卒、女性、地元就職)といった社風の良さをあげる声や「取得している資格が生かせる会社である」(短大卒、女性、地元就職)など、自らが保有する資格と繋ぎの強い会社を選んだとの意見が寄せられた。

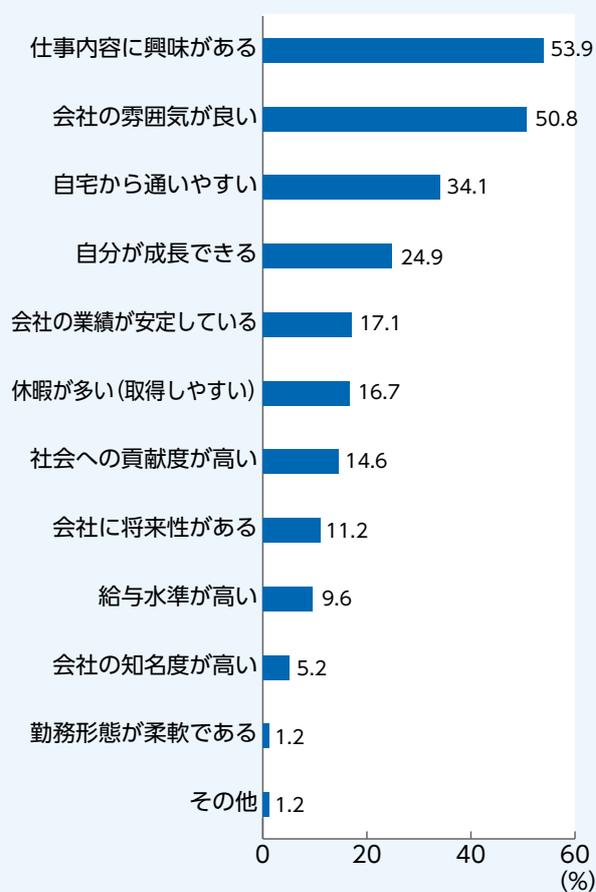
03 就職先を選ぶ際、重視したこと

—「仕事内容に興味がある」「会社の雰囲気が良い」が半数を超える—

就職先を選ぶ際、重視したことを尋ねたところ(複数回答)、「仕事内容に興味がある」(53.9%)、「会社の雰囲気が良い」(50.8%)の割合が半数を超え、特に高くなり、「02. 現在の会社(職場)を選んだ理由」と同じ傾向となっている(図表5)。以下「自宅から通しやすい」(34.1%)、「自分が成長できる」(24.9%)、「会社の業績が安定している」(17.1%)、「休暇が多い(取得しやすい)」(16.7%)などの順となった。

就職形態別にみると、すべての就職形態で「仕事内容に興味がある」の割合が最も高くなっているものの、「地元就職」では「自宅から通しやすい」が他の就職形態に比べて高くなった。また、「Uターン就職」では「会社の業績が安定している」「会社の知名度が高い」などが高く、「Iターン就職」では「会社の雰囲気が良い」「自分が成長できる」などが特に高かった。

■ 図表5 就職先を選ぶ際、重視したこと(複数回答)



04 就職活動において特に参考となった情報収集の方法

—「対面形式の合同企業説明会」と「就職情報サイト」が高い—

就職活動において特に参考となった情報収集の方法を尋ねたところ(複数回答)、「対面形式の合同企業説明会」(38.9%)、「就職情報サイト」(35.0%)の割合が特に高くなった(図表6)。以下「企業のホームページ」(29.0%)、「学内の説明会」(27.4%)、「対面形式の個別企業の説明会」(25.5%)などの順となった。

なお、「合同企業説明会」「個別企業の説明会」「インターンシップ」ではいずれも『対面形式』の割合

が『オンライン形式』を上回った（図表7）。回答者からは「感染対策の面で難しいとは思いますが、やはり対面で話げできた企業に魅力を感じた」（大学院卒、男性、地元就職）、「実際に働いている人の雰囲気を感じ、見聞きした方がわかることが多い」（高卒、女性、地元就職）といった『対面形式』のメリットをあげる声が寄せられた。一方、「オンラインでの説明会があったので、県外からでも気軽に参加できて良かった」（大卒、男性、Iターン就職）など、「Uターン就職」や「Iターン就職」を中心に移動の負担がないといった『オンライン形式』のメリットもあげられた。加えて、「動画での会社説明会は何度も見返すことができるので参考になった」（専門卒、男性、地元就職）のように、オンラインを有効に活用することで効果的に就職活動に取り組んだといった意見が聞かれた。

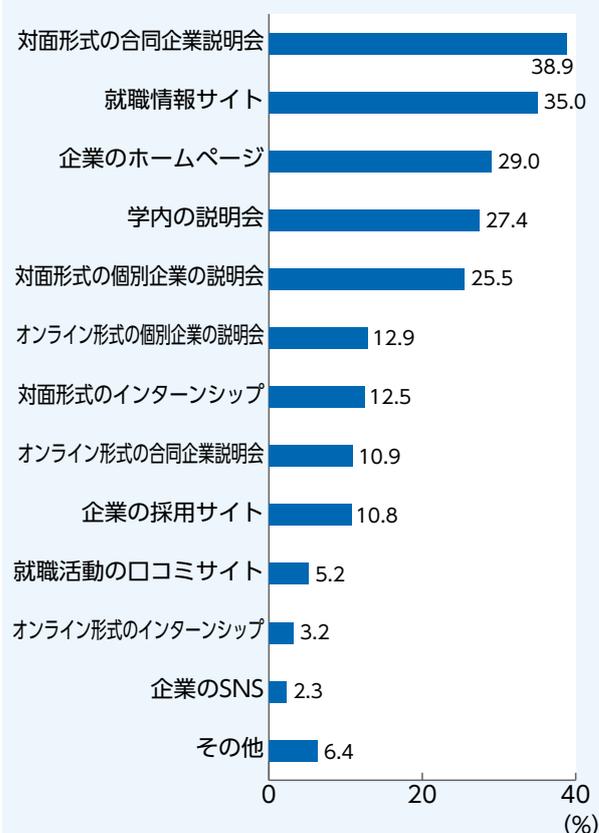
05 企業のホームページ(採用サイトを含む)において特に参考になった項目

一「働く環境（オフィス紹介、立地など）」と「社員の紹介、インタビュー」が4割弱一

企業のホームページ（採用サイトを含む）において特に参考になった項目を尋ねたところ（複数回答）、「働く環境（オフィス紹介、立地など）」（38.1%）、「社員の紹介、インタビュー」（37.1%）の割合が4割弱となり、特に高くなった（図表8）。以下「福利厚生、ワーク・ライフ・バランスの実態」（34.8%）、「企業理念、ビジョン」（29.6%）、「人材育成プラン、社内教育・研修制度」（24.0%）などの順となった。

回答者からは「バーチャルで施設内が見学できたのが良かった」（専門卒、女性、地元就職）や「社員のインタビューによって、実際に働いている方の仕事でのやりがいなどを知ることができた」（大卒、女性、地元就職）、「社長のインタビューでは仕事内容だけでなく、福利厚生など働く環境についても話

■ 図表6 就職活動において特に参考となった情報収集の方法（複数回答）



■ 図表7 就職活動において特に参考となった情報収集の方法（就職形態別、複数回答）

	第1位	第2位	第3位
地元就職 (n= 493)	対面形式の合同企業説明会	学内の説明会	企業のホームページ
回答率 (%)	42.4	32.0	30.8
Uターン就職 (n= 96)	就職情報サイト	対面形式の合同企業説明会	オンライン形式の個別企業の説明会
回答率 (%)	61.5	39.6	22.9
Iターン就職 (n= 68)	就職情報サイト	オンライン形式の個別企業の説明会	学内の説明会
回答率 (%)	36.8	27.9	22.1

されていたので、参考になった」(大卒、男性、Iターン就職)などの声があげられた。

06 就職活動をするなかで、 もっと知りたかった企業の情報

—「仕事内容」が半数を超える—

就職活動をするなかで、もっと知りたかった企業の情報を尋ねたところ(複数回答)、「仕事内容」の割合が51.7%と最も高くなった(図表9)。以下「社員の人柄、特徴」(38.4%)、「社風、組織の雰囲気」(35.1%)などの順となった。

「03 就職先を選ぶ際、重視したこと」の設問において、「仕事内容に興味がある」「会社の雰囲気が良い」をあげる割合が特に高くなった一方、本設問の「もっと知りたかった企業の情報」として「仕事内容」「社員の人柄、特徴」「社風、組織の雰囲気」が上位となった。したがって、これらの項目は学生に十分に伝わっておらず、採用側は情報発信をより一層強化していく必要があると思われる。

07 入社後、仕事をしていくうえで 重視する点

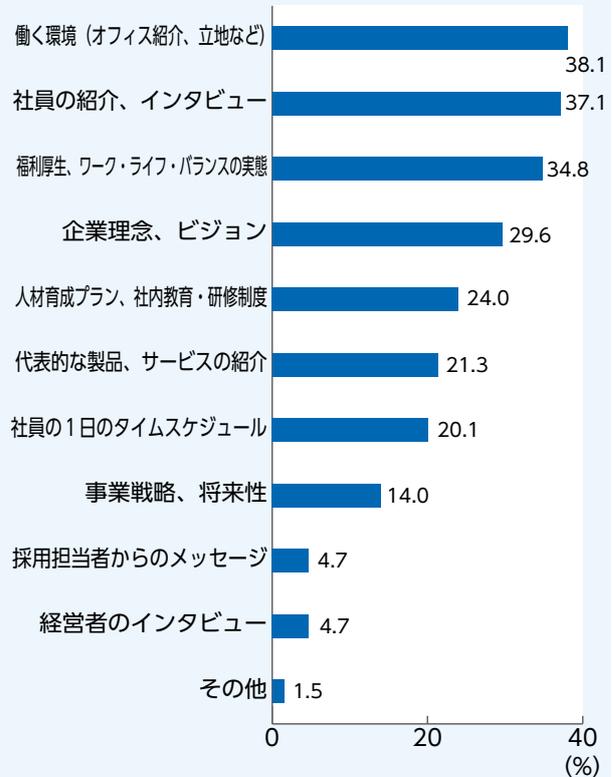
—「仕事を楽しいと感じられるか」が半数を超えトップ—

入社後、仕事をしていくうえで重視する点を尋ねたところ(複数回答)、「仕事を楽しいと感じられるか」の割合が51.2%と最も高くなった(図表10)。以下「良い人間関係で仕事ができるか」(43.9%)、「仕事にやりがいがあるか」(37.0%)などの順となった。

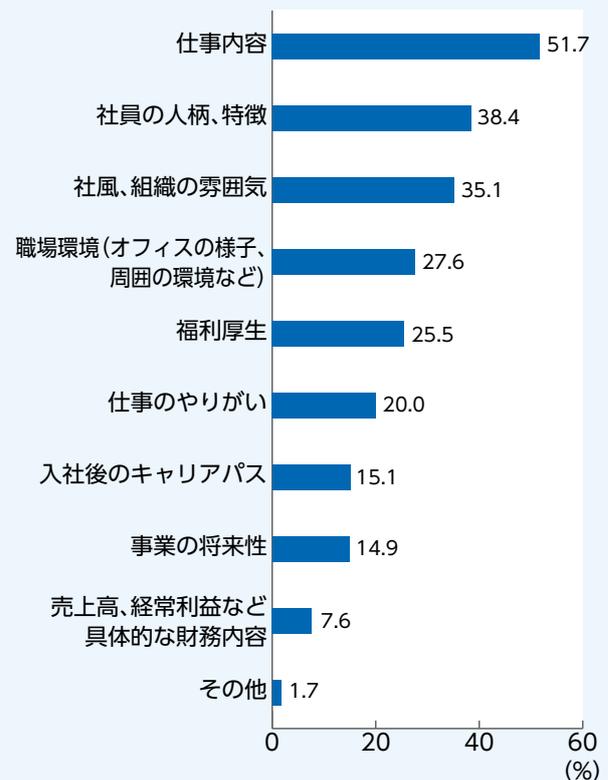
性別でみると、男性は女性に比べて「高い給与をもらえるか」などの割合が高くなった。一方、女性は男性に比べて「社会や人の役に立てるか」「仕事にやりがいがあるか」などが高くなった。

就職形態別でみると、「地元就職」では「良い人

■ 図表8 企業のホームページ(採用サイトを含む)において特に参考になった項目(複数回答)



■ 図表9 就職活動をするなかで、もっと知りたかった企業の情報(複数回答)



間関係で仕事ができるか」などの割合が他の就職形態に比べて高くなった。一方、「Uターン就職」では「プライベートの充実を図れる勤務形態か」「仕事にやりがいがあるか」などが高く、「Iターン就職」では「専門性や個性を生かせる仕事ができるか」「高い給与をもらえるか」などが他の就職形態に比べて高くなった。

08 入社した会社との関係

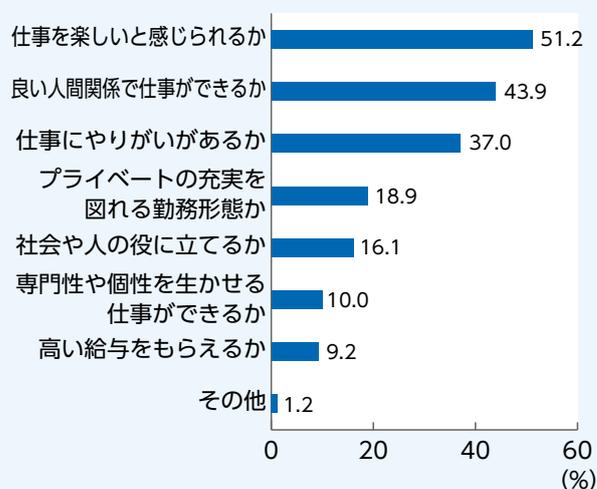
—「定年まで働きたい」がトップとなるも、過去10年間の調査で最低—

現段階での入社した会社との関係について尋ねたところ、「定年まで働きたい」が31.5%と最も高くなった（図表11）。一方、「ライフステージ（パートナーや家族の状況、出産など）に合わせ、転職もありうる」（26.9%）、「今の会社で不満があれば、転職もありうる」（13.4%）、「より良い条件（給与、仕事内容など）の会社があれば、転職もありうる」（13.1%）を合わせた将来的な転職を視野に入れているとの回答は53.4%と半数を超えた。なお、「いずれは独立・開業したい」は4.0%にとどまったほか、「わからない」は11.2%となった。

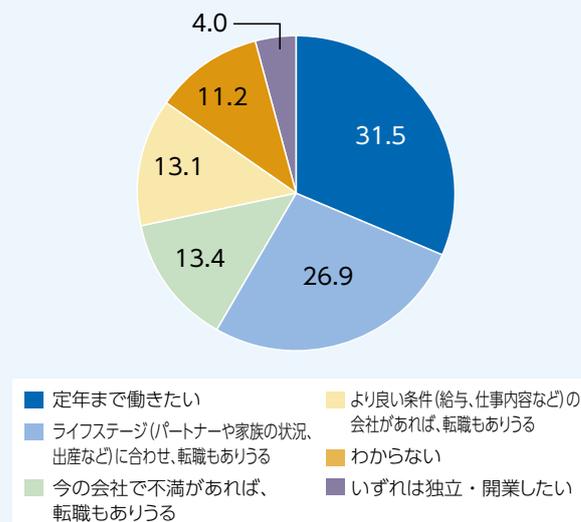
調査対象や選択肢の違いなどがあり単純に比較はできないものの、「定年まで働きたい」の割合は当社が実施した過去10年間の調査のなかで最低となっている（図表12）。

また、調査対象や選択肢に違いがあるため単純に比較はできないものの、23年3月卒業見込みの全国の大学3年生、大学院1年生を対象に実施されたマイナビ「2023年卒大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査（11月）」（21年12月）によると、新卒で入社する会社で「定年まで働きたい」割合は30.7%となり、県内とほぼ同程度の結果となっている。

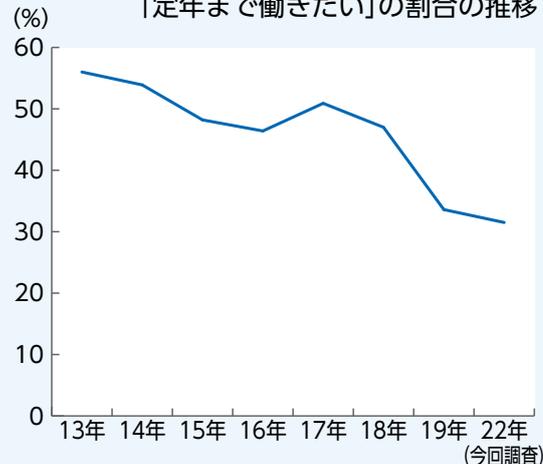
■ 図表10 入社後、仕事をしていくうえで重視する点（複数回答）



■ 図表11 入社した会社との関係



■ 図表12 「入社した会社との関係」において、「定年まで働きたい」の割合の推移



(注) 20年は本調査未実施、21年は本設問の設定がないことから、グラフに記載がない

09 就職活動で魅力的だと感じた企業の 内容、採用活動で工夫されていたこと

就職活動で魅力的だと感じた企業について、その内容や採用活動で工夫されていたことについて意見を求めたところ、以下のような声が聞かれた。

【学生の視点に立ち、不安を解消するための工夫】

- ・個人面談の機会を何回も取ってもらった。入社後のギャップを最小限にすることができた（大卒、男性、地元就職）
- ・説明会が少人数であったため、質問がしやすく、とても参考になった（大卒、女性、Iターン就職）
- ・内定後にも役員と面談する機会があり、質問の時間を作ってもらったことで、入社前の不安が解消された（大卒、男性、Iターン就職）
- ・堅苦しい言葉遣いや専門用語を使わず、明るく気さくな態度で説明していた方は印象が良く、理解しやすかった（高卒、女性、地元就職）

【自社を知ってもらう工夫】

○オンライン形式

- ・オンラインで個別に説明会を開いてもらった（大卒、男性、Uターン就職）
- ・自社製品について、開発に携わった人・過程が細かく説明されており分かりやすかった（高卒、男性、地元就職）
- ・社員のユニークなスキルや経歴がホームページに記載されており、興味を持ったとともに、さまざまな人を受け入れてくれる職場だと感じた（大卒、女性、Iターン就職）
- ・業務の様子や職場などの動画を見て、自分が働いている姿がイメージしやすかった（大卒、女性、地元就職）
- ・Uターン就職した社員とのオンライン交流会があり、不安が解消できた（大卒、男性、Uターン就職）

○対面形式

- ・実際に自社が工事した場所を見学し、どのような事業に携わってきたのかがわかった（高卒、男性、地元就職）
- ・面接のたびに質問時間が設けられており、疑問に詳しく答えてもらえた。面接の過程でもその企業のことをしっかりと知ることができて良かった（大卒、女性、Iターン就職）
- ・会社見学の際、さまざまな年代の方に質問することができたので、会社の雰囲気などを理解することができた（高卒、女性、地元就職）
- ・説明会の際、個別に座談会がある会社は質問がしやすかった（大卒、男性、Iターン就職）

【会社の率直な姿、働き方】

- ・社員がみな、楽しそうな顔で働いている姿が印象的だった（専門卒、男性、Iターン就職）
- ・若手と上司との会話から、世代や役職に壁がなく接しているところがわかり、良い会社だと思った（高卒、女性、地元就職）
- ・仕事内容や就業時間、配属先の決定方法などが透明化されている会社は魅力的だと感じた（大卒、男性、地元就職）
- ・子供の都合で休むことも可能な体制と聞き、働きやすい職場だと思った（その他、女性、地元就職）

【自己啓発、自己成長への支援】

- ・試験など明確な基準が設けられた昇給制度となっていて、自分の頑張り次第で上を目指せるところに魅力を感じた（専門卒、男性、Iターン就職）
- ・資格取得に対してサポートが充実しており、取得後も手当など、具体的な支援策が提示されていた（高卒、男性、地元就職）

まとめ

今回の調査を振り返ると、新型コロナウイルスの影響が続き、制約が課されるなかでの就職活動となったものの、対面形式では職場や社員の雰囲気を感じ取る一方、オンライン形式では社員の働く様子をホームページや動画で繰り返し視聴し、効率的に情報収集に取り組むなど、両者をうまく活用し現在の会社を選んだことがうかがえた。

また、「個人面談の機会を何回も取ってもらった」「オンラインで個別に説明会を開いてもらった」「面接のたびに質問時間が設けられており、疑問に詳しく答えてもらった」「会社見学の際、さまざまな年代の方に質問することができたので、会社の雰囲気などを理解することができた」などの取り組みを魅力的だと感じたとの声が寄せられた。採用側の企業は、採用段階から入社に至るまでの期間にわたり、学生一人ひとりと向き合い、きめ細かいコミュニケーションを図っていくことが求められる。



今年度の新入社員
セミナーの様子

【調査の要領】

1. 調査時期
2022年3月～4月
2. 調査方法
無記名アンケート方式
新入社員セミナーの会場で調査票を配布
3. 調査の対象者
2022年春に新潟県内の企業・団体に就職した
新入社員
4. 回答者数
有効回答 661人

		人数	構成比 (%)
合計 (内訳)		661	100.0
性別	男性	408	61.7
	女性	253	38.3
最終学歴	高校	199	30.1
	短大	18	2.7
	専門学校	131	19.8
	大学	284	43.0
	大学院	16	2.4
	その他	13	2.0
就職形態	地元就職	494	74.7
	Uターン就職	97	14.7
	Iターン就職	69	10.4
	無回答	1	0.2
業種	製造業	208	31.5
	卸売業	38	5.7
	小売業	36	5.4
	サービス業	148	22.4
	建設業	120	18.2
	その他	110	16.6
	無回答	1	0.2

(注) 図表の数値は四捨五入をしているため、回答割合の合計が100.0%とならない場合がある

(2022年6月 近)